

IV. 普及・公開活動の記録

(渡邊 峻)

新文壇 ニュース 昭和4年11月1日

埋文楼 ニュース

「埋文楼」は、文壇の中心地である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。

埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。

埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。

埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。

埋文楼の位置

東京、大阪、京都、名古屋、福岡、札幌、仙台、横浜、神戸、広島、岡山、香川、徳島、高松、松山、高知、大分、熊本、鹿児島、沖縄

埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。埋文楼のニュースは、文壇の動向を伝える重要な情報源である。

秋の埋蔵文化財展

1 展示名称

令和3年度埋蔵文化財展『発掘された愛知の城』

2 会場

愛知県埋蔵文化財調査センター 収蔵庫C・資料管理閲覧室

3 会期

令和3年11月4日(木)～11月12日(金)※11月6日(土)・7日(日)も開場

開場時間：午前10時～午後4時

4 内容

センターでこれまでに発掘調査した城跡は22遺跡に上る。これらは尾張地域の平城や三河地域の山城、さらに近世城郭など多様である。これらの調査成果図をよりわかりやすい城の構造図解とし、出土遺物とともに展示した。平城は岩作城跡(長久手市、平成10年度調査)、山城は矢並下本城跡(豊田市、平成13年度調査)を選んで150分1スケールのジオラマを作成した。また城山城跡(豊田市、平成12・13年度調査)で検出した薬研堀の断面を実物大で作成して、より立体的・体感的に城の構造が理解できるようにつとめた。一方、愛知県内の各市町村で行われた城跡の発掘調査成果についても、写真を借用し解説や愛知県内の城跡

分布図を付して展示した。またそれに合わせて尾張と三河で異なる型式となる土師器鍋も展示して、戦国時代の地域色がわかるようにした。

5 解説シート

A4版両面カラー印刷 1枚

6 関連行事

(1)パネル用写真公募『あなたの「城」写真を展示パネルに』

個人で撮影した城の写真をWeb上で公募しパネルにして展示する企画。公募期間：令和3年10月4日(月)～11月12日(金)。展示期間：令和3年11月4日～令和4年3月31日。応募点数19点。

(2)新作ゲーム『戦国愛知!城取り輪投げ～英雄たちの夢～』

地図風マット上に配置した城を狙って輪投げで高得点を競うゲーム。11月6・7日開催。参加者42人。

(3)ワークショップ『清須城の金箔瓦を作ろう』

3Dデータで作成した清洲城下町遺跡出土軒丸瓦の范型で量産した紙粘土製の瓦当に金色絵の具を塗布して金箔瓦を擬似的に制作する企画。参加料150円。参加者17人。

7 入場者数

334人(9日間)

(永井邦仁)



資料管理閲覧室の展示



収蔵庫Cの展示



金箔瓦の色塗り体験



『戦国愛知!城取り輪投げ～英雄たちの夢～』

連続歴史講座「型式学の考古学」

目的：愛知県内外の考古学に関する成果などを広く一般県民に公開するための歴史講座を開催する。

場所：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階 研修室

時間：いずれも午前10時30分より開催。参加費は無料。

	日時	タイトル	講師	参加人数
第1回	5月15日	型式学入門	永井宏幸	19人
第2回	5月29日	縄文土器の型式学	渡邊 峻	23人
第3回	6月12日	石器の型式学	社本有弥	23人
第4回	6月26日	層位学と考古学	鬼頭 剛	22人

本年度の連続歴史講座は「型式学の考古学」というテーマで5月から6月にかけて4回開催した。新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上、参加者の方にはマスクの着用、検温、アルコールによる手指の消毒の実施、ソーシャルディスタンスを保ため座席の間隔を空けて聴講をお願いした。専門性の高い内容だったものの、講師への熱心な質問などに参加者の積極的に学ぶ姿勢が感じられた。コロナ禍にも関わらず多くの方々にご参加をいただき、講座を無事実施することができた。

(永井宏幸)



▲歴史講座の様子



▲歴史講座の資料

発掘体験講座

調査遺跡周辺住民に遺跡の紹介と発掘調査の必要性について理解を得るとともに、埋蔵文化財保護の重要性と普及・啓発を図る目的で企画された。この企画を受けて、発掘体験を行う遺跡の選定と開催日時について、今年度当初から検討をおこなった。その結果、発掘調査の必要性について理解を得るといふ目的のためには、ある程度の説明を行う時間が必要と考え「講座」として時間を設定した。

会場：一色青海遺跡(発掘体験)、メタウォーター下水道科学館あいち(講座)

日時：令和3年8月27日(金) 9:00～12:00

参加者：事前申し込み制(10名)

参加費：500円

「発掘体験」作業では、遺物が出土する状況を知ってもらうことと、遺物の取り上げを行なってもらうことを重視し、遺物を多く包含する弥生時代中期の河道跡(400NR)の一部で掘削をおこなった。予想最高気温が35度を超える猛暑日であったため、熱中症の危険を避けるために気温が相対的に低い午前中に作業を実施した。屋外での作業は途中での水分補給を挟み1時間以内とした。それでも参加者からは、この暑い中での作業は本当に大変との感想が聞かれた。

「講座」としての座学では、まず発掘調査が行われるまでの法律や事務の手続きを説明した。遺跡の範囲が示される「マップあいち」、県内各地の遺跡の情報が掲載されている愛知県史、稲沢市史などを例として紹介し、遺跡が居住地の近隣に存在することを紹介した。さらに、遺跡の発掘調査の多くは開発に伴い行われることや、発掘調査で出土する遺物の取り扱いや保管状況などを説明した。

この発掘体験は当初から大人向けとして企画したため、講座の内容が小学生の参加者にとって難解になってしまったことが反省点であるが、「発掘体験」という点では出土遺物が多数あり、発掘調査受託会社の協力により、出土遺物を記録(撮影・測量)する一連の作業を間近で見学してもらえたことも発掘調査の作業の実際を見るという点で、良い体験をしていただけたものと考えられる。

「発掘体験」である以上は、出土遺物に触れ合う機会が必要であり、確実に遺物を包含した遺構が存在することや、交通が便利、あるいは駐車場の必要数の確保、気象条件など、実施可能な条件が揃うことが必要となる。これらを満たすのは周辺で調査が進んでいる周知の遺跡で遺構の存在が確実なこと、調査の規模がある程度大きく(調査期間が長めである)、郊外で実施し駐車スペースが容易に確保できる遺跡は発掘体験が実施可能と考えられる。

(鈴木恵介)



発掘体験開始前の説明



発掘体験実施中の様子



発掘体験後の講座の様子

栄中日文化センター協力講座

愛知県埋蔵文化財センターでは、発掘調査で明らかになった新たな愛知県の歴史像を紹介することにより、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図るため、名古屋栄中日文化センターの依頼と協力を得て、年2回協力講座を有料で開講した。

織田信長の都市づくりのルーツを探る—尾張の中世都市の変遷—

会場：栄中日文化センター（久屋中日ビル）

日時：令和3年5月27日（木）・6月24日（木）・7月22日（木）、いずれも10:30～12:00

担当講師：鈴木正貴

参加者：5月27日：20名、6月24日：20名、7月22日：22名

内容：戦国時代に天下布武を掲げ、後の歴史を大きく変革した織田信長は、約450年経った今でも織田信長のリーダー像に惹かれる人は多く、その人気は衰えていない。織田信長が生み出した革新的な構造を持つ城郭や城下町についても、その形が近世城郭や城下町に受け継がれており、結果として現代の都市へと繋がっている。講座では、織田信長が生まれた尾張における中世遺跡の発掘調査から集落・町・城の発展の様子を明らかにし、織田信長が築いた城と町の何が革新的だったのか、そして、これを生み出した背景について講義した。この結果、文字史料ではなくモノから戦国時代を語ることの面白さを解説した。

第1講 織田信長の城づくりと都市づくり

清須城・小牧山城・岐阜城・安土城などの織田信長が居城した城郭とその城下町を比較して、織田信長が作り出した城づくりと都市づくりにおける革新的なモノとは何かを明らかにしていく。

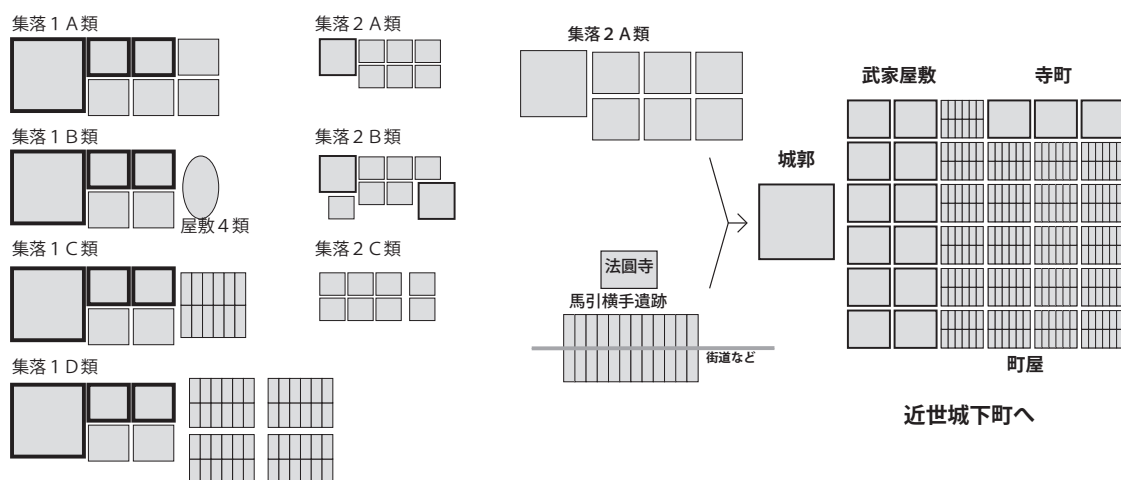
第2講 中世集落から戦国時代の城と城下町へ

尾張では平安時代の終わり頃から人々の生活が一変し新しい村の形ができ、やがて萱津や下津などの宿や市などが勃興し、支配者は館や城を築いた。信長が誕生するまでの都市づくりにおける時代背景を探る。

第3講 受け継がれる城づくりと都市づくり

尾張の実権は織田氏から豊臣氏そして徳川氏へと引き継がれた。その中で清須城と名古屋城を比較して受け継がれたモノとそうでないモノを明らかにし、徳川政権の城と都市づくりの特色を浮かび上がらせた。

（鈴木正貴）



集落の分類模式図(鈴木2017「集落の変遷と都市」『愛知県史資料編5考古5』を改変)

奈良時代の尾張国と参河国 ―遺跡からみた古代の地域社会―

会場：栄中日文化センター（久屋中日ビル）

日時：令和3年10月19日(火)・11月16日(火)・12月21日(火)、いずれも10:30～12:00

担当講師：永井邦仁

参加者：10月19日：24名、11月16日：25名、12月21日：25名

内容：律令制が整えられ、平城京に都が置かれた奈良時代。現在は愛知県となっているエリアに尾張国と参河国が設置されたのもこの時代である。奈良時代は、それ以前に比べて文献史料でわかる事が圧倒的に増えるが、一方で文献史料にあまり記されていない地方の動向については、遺跡の発掘調査を通じた考古学的な視点が必要となる。今回の講座では、愛知県内にある寺院、集落、官衙（役所）の各遺跡から当時の社会を復元していく。合わせて考古学者が瓦や土器をどのように読み解いていくのか、その方法についても提示する。

第1講 『尾張最古の願興寺と参河最古の北野廃寺』

7世紀に急増した古代の仏教寺院。愛知県最古の古代寺院跡が、名古屋市と岡崎市にある。それぞれを起点に、尾張と参河の豪族たちの間でどのように仏教と寺院造営が広がっていったのか、比較しながら考えていく。

第2講 『人々の暮らした集落と猿投窯の須恵器づくり』

平城京に住む貴族に対して地方の豪族や一般の人々はどのような暮らしぶりだったのか、その生活の場であった集落遺跡に実像を探る。また代表的な生産物である猿投窯の須恵器からみた奈良時代の文化を発見する。

第3講 『尾張国府を大胆に推測する』

古代地方行政の拠点である国府はどこに所在してどれくらいの規模だったのか、まだ謎にまつまれた尾張国府について、参河国や伊勢国などの事例と比較しながら発掘された遺跡をもとに推測する。

(永井邦仁)



水入遺跡98D区古代の集落跡

第10回 考古学セミナー「あいちの考古学2021」

概要: 考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人(NPO)、研究グループ、関連企業などが一堂に会して遺跡調査と考古学に関する研究成果を広く一般に公開し情報を共有することを目的に、平成24年度より開催している。名古屋市博物館が会場となって8年目となる。

今回は、感染症対策のため、講堂で行われるシンポジウムとプレゼンテーションに関しては、事前予約制(各日100名まで)として実施した。継続して参加されている方だけでなく、初めて参加された方も多数いた。

主 催: 名古屋市博物館・名古屋市教育委員会文化財保護室・愛知県埋蔵文化財センター

日 時: 12月11日(土)13時～16時

12月12日(日)10時～16時

会 場: 名古屋市博物館 講堂・展示説明室

参加者数: 12月7(土)・8日(日) 合計282名

出展団体・個人: プレゼンテーション10、ポスターセッション18(エントリー制)

講 演: 城ヶ谷和広(愛知県埋蔵文化財調査センター)

事例報告・パネルディスカッション:

片桐妃奈子(名古屋市教育委員会文化財保護室)、大西 遼(愛知県陶磁美術館)、森 まどか(福井県陶芸館)、武部真木(愛知県埋蔵文化財センター)

◎12月11日(土)13時～16時(12時30分開場)

13:00～13:10 開会あいさつ

<シンポジウム>『あいちの窯業 猿投窯にはじまる』

13:10～14:10「あいちの窯業 猿投窯にはじまる」城ヶ谷和広(愛知県埋蔵文化財調査センター)

14:10～14:20 ◆小休止

14:20～14:25 趣旨説明 「あいちの窯業 猿投窯にはじまる」武部真木(愛知県埋蔵文化財センター)

14:25～14:45 「窯業のはじまりー東山地区ー」片桐妃奈子(名古屋市教育委員会文化財保護室)

14:45～15:05 「山々には窯焚きの煙ー岩崎・鳴海・折戸・黒笹地区ー」大西 遼(愛知県陶磁美術館)

15:05～15:25 「新たなやきものをー緑釉陶器・灰釉陶器」森 まどか(福井県陶芸館)

15:25～16:00 パネルディスカッション

(城ヶ谷和広・片桐妃奈子・大西 遼・森 まどか・司会 武部真木)

16:00 ◆2日目の案内と関連展示の案内

◎12月12日(日)10時～16時(9時30分開場)

10:00～10:10 2日目日程・連絡

<プレゼンテーション>

10:10～10:30「大府市石丸遺跡発掘調査と未来」白樫 淳(株式会社 アコード)

10:30～10:50「水中遺跡における分布調査の実践例ー豊川河床遺跡と琵琶湖湖底遺跡の調査事例から」

中川 永(豊橋市美術博物館)

10:50～11:10「古代の風を感じてみませんか?『久留倍官衙遺跡公園』を紹介します」

大原涼子(四日市市教育委員会)

11:10～11:30「広久手C3窯跡 第1～3次発掘調査報告」山田美咲(愛知学院大学大学院)

11:30～11:40 ◆宣伝タイム

11:40～13:00 ◆昼休憩

13:00～13:20「江戸後期の瀬戸窯の一例ー桂蔵窯跡の調査からー」河合君近((公財)瀬戸市文化振興財団)

- 13:20～13:40「近代犬山焼の新資料-尾関作十郎と六世乾山-」佐久間真子(愛知県陶磁美術館)
- 13:40～14:00「太佐山高射砲陣地確認調査について」宮澤浩司(東海市教育委員会)
- 14:00～14:30 ◆休憩
- 14:30～14:50「根方岩陰遺跡(岐阜県高山市)における縄文時代早期を中心とした出土遺物の検討」
加藤大智(南山大学大学院)
- 14:50～15:10「南知多町天神山遺跡の縄文土器」堀内祐花(南山大学大学院)
- 15:10～15:30「愛知県南知多町天神山遺跡の縄文早期末頃の動物遺存体群」
廣瀬允人(名古屋大学大学院)
- 15:30 閉会あいさつ

<ポスターセッション>

- (1)「設楽ダム事業に伴う発掘調査2021」愛知県埋蔵文化財センター
- (2)「近代犬山焼の新資料-尾関作十郎と六世乾山-」青木 修・井上あゆこ・佐久間真子・宮川菜々子・
中野耕司・鈴木智恵・安藤 悟(犬山焼ミュージアム)
- (3)「令和3年度井ヶ谷古窯跡群の分布調査(計画)について」河野あすか(刈谷市歴史博物館)
- (4)「畑間遺跡出土の大量出土銭について」早川由香里(東海市教育委員会)
- (5)「富士山1号墳の発掘調査」藤原秀樹・吉田真由美(鈴鹿市考古博物館)
- (6)「動物遺体同定と人骨同定-骨分析からわかること-」三谷智広(株式会社パレオ・ラボ)
- (7)「大府市石丸遺跡発掘調査と未来」白樫 淳(株式会社アコード)
- (8)「360度カメラによるVR(仮想現実)でのリアルな体験」榊 孝浩(安西工業株式会社)
- (9)「UAVレーザー測量のご紹介」山田哲也(株式会社イビソク)
- (10)「文化遺産カードの取組と広報施策について」西村誠治・植木 萌(ナカシャクリエイト株式会社)
- (11)「出張!安城市内 発掘調査報告展」後藤麻里絵(安城市埋蔵文化財センター)
- (12)「古代の風を感じてみませんか?『久留倍官衙遺跡公園』を紹介します」
大原涼子・大野路彦(四日市市教育委員会)
- (13)「犬山城大手門枳形跡(犬山市福祉会館跡地)発掘調査成果について」中野拳弥(犬山市教育委員会)
- (14)「2021年度 豊田市伊保古瓦出土地(伊保白鳳寺)の発掘調査」
張 睿帆・張温舒芸・陳 永強・相場伸彦・須賀永帰(名古屋大学大学院)
- (15)「岐阜県九合洞窟出土の縄文時代草創期末の動物遺存体群」廣瀬允人(名古屋大学大学院)
- (16)「あいちの窯業 猿投窯にはじまる」武部真木(愛知県埋蔵文化財センター)
- (17)「先史時代人の行動復元-川向東貝津遺跡の接合作業から分かったこと-」神取龍生・平井義敏・
田中 良・野村啓輔・松田莉歩・加藤大智・飯塚寿音(東海石器研究会)
- (18)「考古学フォーラム・東海石器研究・三河考古のご案内」考古学フォーラム・東海石器研究会・
三河考古学談話会 (田中 良)



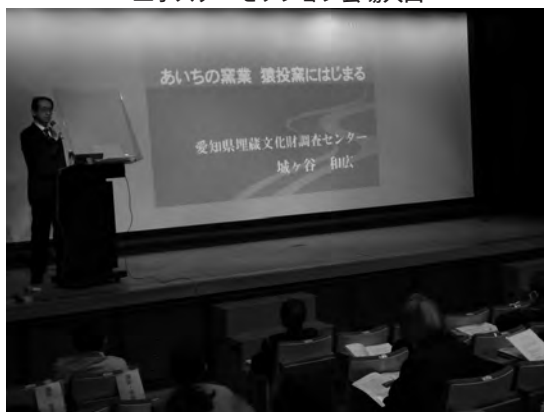
▲プレゼンテーション講堂受付



▲ポスターセッション会場入口



▲設案ダム関連調査ポスターセッション展示



▲シンポジウム城ヶ谷和広氏の講演



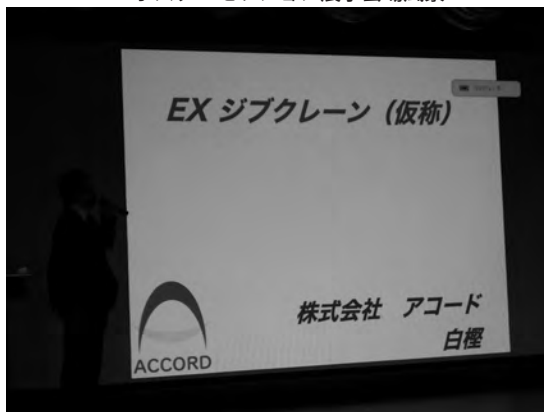
▲シンポジウムパネルディスカッション



▲ポスターセッション展示会場風景



▲プレゼンテーション



▲宣伝タイム(株式会社アコード)

考古学講座「朝日遺跡の周辺環境をめぐる最新研究」

目的：あいち朝日遺跡ミュージアムとの連携事業。
 場所：あいち朝日遺跡ミュージアム研修室
 日時：令和4年1月29日(土) 午後1時30分～3時
 講座タイトル：『朝日遺跡の周辺環境をめぐる最新研究』
 講師：樋上 昇
 参加人数：31名

令和2年秋にオープンしたあいち朝日遺跡ミュージアムとの連携事業として、愛知県埋蔵文化財センターが主催した考古学講座である。場所柄、朝日遺跡をメインとした講義とする必要があり、令和3年3月に刊行した『朝日遺跡X』に掲載した史跡貝殻山貝塚周辺の新しい環濠の復元案と、総合地球環境学研究所にて樋上が共同研究に参画した年輪酸素同位体比によって復元された弥生時代の気候変動が朝日遺跡の変遷にどのような影響を与えたのかの二本立ての発表内容とした。

新型コロナウイルスの蔓延にも関わらず、31名もの方々の参加を得た。(樋上 昇)

愛知県埋蔵文化財センター主催
令和3年度 考古学講座 聴講無料 要申込

愛知県内外の考古学に関する研究成果や研究動向などを、一般の方々に公開するための講座を開催します。

『朝日遺跡の周辺環境をめぐる最新研究』
 講師：樋上 昇

開催日：令和4年1月29日(土) 13:30～15:00
 会場：あいち朝日遺跡ミュージアム

参加費：無料(展示室の入場は有料)
 聴講者数：50名まで(申込先着順)
 申込期間：令和4年1月5日から28日正午まで
 申込先：愛知県埋蔵文化財センター 調査課
 0567-67-4163 (平日 9:00-16:00)



あいち朝日遺跡ミュージアム



▲講座チラシ



▲講座の様子

